

川町の大船渡蔵で「活性原酒雪っこ」の出荷式を行った。東日本大震災で被災し、新たな蔵で仕込み2年目。従業員は多くの支援への感謝の思いを込めて新酒を送り出した。

出荷式には金野靖彦会長・金野連社長、従業員ら約30人が出席。神事を行い、新酒が完成したことを告げる杉玉を蔵入り口に掲げた。雪っこが積まれたトラ



「活性原酒雪っこ」を積んだトラックを拍手で見送る従業員ら=大船渡市

津波被災の絆 海越え

スマトラ沖地震の津波で被災したスリランカの女性と釜石市、大槌町の女性らによる交流報告会が1日、同市役所で開かれた。両国の女性らは8月末から相互の国を訪問して交流を続けている。津波で甚大な被害を受けた共通体験を語り合い、海を越えた絆を強めながら復興への決意を新たにしました。

スリランカと釜石、大槌の女性



相互訪問や体験共有 交流続けた成果報告

報告会を終え野田武則市長（右）と談笑するナンダシリ・ガマゲさん（左から4人目）ら



マツタケ存分に 岩泉で6日 イベント 料理企画も展開

「岩泉まつだけ祭り」（実行委主催）は6日、岩泉町岩泉のホテル龍泉洞愛山で行われる。同ホテルを含む市内の宿泊施設など8店がマツタケづくめの御前料

岩泉まつだけ祭りで提供されるマツタケ料理の数々

報告会はスリランカ訪問を企画した同町のNPO法人つどい（元持幸子事務局長）が主催。元持さん（39）と同市の2人、スリランカ女性開発サーブス協同組合（通称女性銀行）のリーダーら5人が出席した。

女性銀行は、地域の女性がお金を出し合って貯蓄と融資をする小口信用貸し付け活動。1989年に始まり、被災者や貧しい人たちの生活向上へつなげている。8月末に9日間の日程でスリランカを訪れた釜石・大槌の女性5人は、女性銀行や生活再建の取り組みを視察した。

佐々木静子さん（65）は「女性の結束の強さを感じた」と述べ、阿部志穂さん（33）は「防潮堤を造らなかつた分、きれいな海が残されていた」と振り返った。

女性銀行の創始者ナンダシリ・ガマゲさん（69）は「家は一生に一

度の物なので住宅再建が一番大事だ。政府、地方行政の（手厚い）支援が必要」と指摘し「自然が相手。誰も悪くない。だから必ず復興できる」と励ました。

スリランカの女性らは9月28日から4日間、大槌町民との交流会や被災地視察をしている。元持さんは「行動を起こす勇氣と生活力の強さを感じた。自分たちでやるんだという気持ちで釜石・大槌のネットワークを強めていきたい」と成果を生かす考えだ。

「鉄道ダンシ」車両登場 久慈・三陸鉄道（本社富古市、望月正彦社長）は1日、久慈市中央の久慈駅で、同社のイケメン社員キャラクター「鉄道ダンシ」の田畑ユウが描かれたラッピング車両をお披露目した。同日はコンビニチェーンのファミリーマート（本社東京都豊島区、中山勇社長）との共同開発パンも発表した。

出発式で坂下政幸事業本部長は「鉄道ダンシは今後もさまざまな形で進歩していきたい」とあいさつした。

ラッピング車両トロ列車に鉄道キャラクターをデザイン。ユウをデザイン。ユウを声優櫻井孝宏さんが、駅名や沿線案内などの車内する。14日まで祝日、北リアス・慈恵・田野畑駅間2往復する。

共同開発パンの社団法人田野



真新し
聞かせ

必要で、締め切り日。申し込み。わせはホテル龍山（0194・

読む

宮十
図書